明治大学大学院教養デザイン研究科

映像資料活用による学際的アプローチの醸成プログラム

バングラデシュ首都ダッカの闇

路上で暮らす子どもたちに降り掛かる危険

僕たち私たちに出来ることってなんだろう？

『アリ地獄のような街』

（監督：シュボ・ロイ、バングラデシュ／ 2009 ／約 80 分）

バングラデシュの貧困問題に取り組んでいる渡辺大樹さんを迎え、映画、そして現場の生の声を聞きながら、貧困問題とは何なのか、そして私たちに出来ることとは何か、ということを考えていきます。

作品紹介：『アリ地獄のような街』公式サイトより

農村での生活を捨て、生き延びるための僅かなお金を握りしめ、大都会ダッカへ足を踏み入れた少年ラジュ。そこでラジュはダッカの路上で暮らすストリートチルドレンなどと知り合っていき、彼らの元締めであるイアシンという男のもとに連れて行かれる。イアシンはダッカの暗闇を象徴するような男であり、子ども達を使って様々な違法な商売に関与している。ラジュも自分がしている悪事に気づかないまま、イアシンの手先になっていってしまう。一方、路上に捨てられた少女ククもイアシンの餌食となり、ダッカの闇の生活に落ちていってしまう。

この物語は、蟻地獄のように引き寄せられ、決して逃れることのできない、ダッカの現実の姿を描いた映画である。

監督紹介：シュボシシュ・ロイ (SHUBHASHISH ROY)

16 歳の時に国民映画「DIPUNumber2」（邦題：転校生ディプー）に出演し（助演）、当年のバングラデ シュ国民助演賞を受賞。1998 年の福岡映画祭に選ばれ、日本に招待される。ダッカ大学在学中に、友人とともにエクマットラを設立。エクマットラ活動の一 環としてメディア活動を指揮し、多数のドキュメンタリー映像を制作。

2009 年には初の映画「アリ地獄のような街」を完成。4 月にバングラデシュで初上映 会を行った。

講演者紹介：渡辺大樹

1980 年生まれ、横浜市出身。金沢大学文学部卒。大学時代はヨット部に所属。タイ・プーケットで行われたヨットの国際大会時にスラムの子どもを見て衝撃を受ける。帰国後 1 年間バイトで貯めたお金を持ち、世界最貧国の 1 つバングラデシュへ。2004 年にエクマットラを共同創設。バングラデシュの問題はバングラデシュ人の手により解決するべきと考え、現在は顧問として活動を指揮し、エクマットラアカデミー設立に向けて奔走中。

※エクマットラとはバングラデシュのストリートチルドレンの生活支援をしている民間団体

日時：11 月 15 日（金）　13：30　～　17：00

予約不要　学部生の受講可

会場：明治大学　和泉キャンパス　図書館ホール（1 F）

講演者：渡辺大樹

コーディネーター：鳥居　高　明治大学商学部教授

企画：佐伯良介　教養デザイン研究科博士前期課程 2 年

学外の方も受講可能です。
事前にお電話ください。
教養デザイン研究科
TEL: 03 – 5300 – 1529